

学長室だより

2020.3.30 NO.23

奮闘を見られる日 心待ちに

私が住んでいる秋田市の宿泊施設からは県の中央公園が見渡せる。陸上競技場、屋内運動場、その向こうには秋田空港の滑走路……。この景色は四季折々また朝昼晩ごとに異なる表情を見せてくれる。休日にビールを片手にソファに座って静寂の中になると、風景画の中に自らの身を置いているようだ。

中央公園では、春から秋にかけて多様なスポーツ大会が繰り広げられる。野球やサッカー、陸上などの屋外競技が盛り上がり、遠くから歓声が聞こえてくると、部屋にじっと座ってはいられない。そそくさと日よけ用の帽子をかぶり、会場へと出かけていくことになる。

私が特に好きなのは陸上競技だ。特に中学生男子の100メートル、200メートル、800メートルリレー。なぜかという、私も栃木県の中学生時代にこの3種目の選手だったからだ。

もう60年以上も前のこと。中学1年生になったばかりの5月に風邪をこじらせて気管支炎になり、微熱が続き、学校へ行ったり休んだりしていた。2年生になってようやく体力も回復し、学校に通えるようになったが、中学から始まった英語の授業や体育には全くついていけなかった。同級生はすでに教科書の英文を使って授業を受けているのに、自分はアルファベットの書き方を自習していた。悲壮な思いで覚悟を決め、英語は教科書をすべて丸暗記すること、体育は自分の家の周りを欠かさずジョギングすることを決めた。

その成果が出たのか、体育の授業で100メートルを走ってみるとなんと12秒00。校内大会で1位、那須郡の大会でも1位だった。当時、NHKラジオを活用して、全国一斉にタイムを競う「全国放送陸上大会」という大会があった。私は100メートルで11秒80を記録し、栃木県の中学生の部で2位になった。

一方、最初はついていけなかった英語も中・高校を通じてすべて教科書を暗唱する計画をたて実行することで、苦にならなくなっていた。後年筆者は米国の大学院に留学し、博士号を取得後、アメリカに残ってワシントン州立大やイリノイ大で10年間、「経営学」を教えることになるのだが、そのために英語の特別な勉強をした覚えはない。栃木の田舎の中・高校で培った「英語丸暗記」で通用したのだ。

新型コロナウイルスの影響で、本学でも、感染予防の観点からクラブ・サークル活動含めて人が集まるイベントは自粛している。小中高校の一斉休校で、子供たちは毎日どのように過ごしているだろうか。プラス思考をすれば、自分で勉強の計画を立て、それをきちんと実行する習慣を身につける貴重な機会にもなりうる。

今年もまもなく、陸上競技のシーズンがやってくる。以前のように陸上競技場のあの芝生に座って、若者たちの奮闘を観戦できるようになる日を、心待ちにしている。



鈴木 典比古

注) 朝日新聞秋田版「あきたを語ろう」からの転載です。以下 URL からもご覧いただけます。
<http://www.asahi.com/area/akita/articles/MTW20200330051550001.html>